

イノベーションチャレンジ2021 成果発表 課題に気づき解決する力を育てる

地域が抱える課題に気づき、解決へのアイデアを仲間とともに導き出す体験型キャリア教育「イノチャレ」に3名の中学生が挑戦しました。取材を通じて見てきた廃棄野菜問題をテーマに約7か月かけて解決の糸口を探った生徒たち。12月12日の発表会では若い視点から斬新なアイデアを提言し大きな成長を見せました。



課題解決に明確な答えは存在せず互いの意見交換から無限の可能性を探ります。左から上川路征一郎くん、馬庭英慈くん、福岡香織さん。

今年は田代小、神川小、宿利原小、大根占小の6年生が参加。一匹から2つしか取れない貴重部位「脳天身^{のうてんみ}」も唐揚げでいただきました。



魚食普及を目指し「おさかな料理教室」 特産のカンパチを刺身で味わう

魚や海の魅力を知ってほしいと漁協青壮年部が開いた、恒例の「おさかな料理教室」に町内4小学校から6年生57名が参加しました。「魚料理に親子でチャレンジしてほしい。漁業にも興味を持つきっかけになれば」と期待を寄せた染川和希部長。刺身にした新鮮なカンパチを堪能し、地元錦江町に広がる錦江湾の味覚に触れました。

当日はやまんなかマルシェも行われ、冷えた体を温かい料理や飲み物で暖めながら、優しく灯るキャンドルと音楽を楽しんでいました。



冬の花瀬をキャンドルと花火が彩る やまんなかりモート音楽会を開催

12月11日、花瀬でんしろ館グラウンドでやまんなかりモート音楽会が開催されました。カサリンチュの村山辰浩さんやベリーグッドマンなど4組が、会場内に設置された大型モニターにリモート出演。子どもたちが2,000本を超えるキャンドルでクリスマスツリーを作るなど会場を彩り、澄み切った冬空に輝く花火で幕を閉じました。

「気持ちのこもった手紙がうれしかった。またお礼を伝えたい」と目を細める垂口徹郎さん。ゆうゆうカフェは1月から月2回の開催を予定。問い合わせは町地域包括支援センターまで。



大根占小児童らが世代間交流 心温まる手紙に満面の笑顔

認知症の当事者やその家族らが参加する集いの場、「ゆうゆうカフェ」が昨年5月にスタート。誰もが安心して暮らせるまちづくり実現に向けた取り組みが始まっています。12月20日には大根占小4年の児童29名と、卒業式で使うパンジーに肥料や油粕など追肥を行いながら交流を深めたメンバー。児童からの手紙に満面の笑みがこぼれました。

「失敗を恐れず、挑戦を続ける職員に」 木場一昭町長が最後のあいさつ

2017年12月から1期4年間、町政の舵取りを担ってきた木場一昭町長が、12月17日をもって退任されました。退任式では「今後は一町民そして行政、町長を経験した者として錦江町発展のために協力したい」と行政生活40年を振り返りあいさつ。正面玄関前に集まった大勢の職員や町民から拍手で見送られ庁舎を後にしました。



「まちづくりに人材は欠かせない。失敗を恐れず挑戦を」と職員へ最後の訓示を述べた木場町長は、40年務めた役場に別れを告げました。

バーベキュー通じて農家と中学生が交流 町畜産振興会が畜産の魅力伝える

町の基幹産業である畜産の魅力伝えたいと3年前に始まった、「畜産を学ぶ会」が12月7日に開催されました。錦江中と田代中の3年生50名が参加し、バーベキューを通して農家や関係者と交流。貫見広幸会長は「未来を担う子どもたちと交流できる貴重な機会。畜産の魅力と可能性を伝える場にしたい」と力を込めました。



錦江中3年の宮原^{いっさ}芽くんは安心安全な牛肉を提供するために欠かせない「耳標^{じりょう}」の装着を体験し、品質管理の重要性を肌で感じました。

それぞれの代表を務める宮下和代さんと城下朝美さんは、「薄味でも下味やダシなどの工夫で満足感は高まる。減塩の意識を」と話します。



食生活改善推進員と花蓮会が料理で交流 減塩をテーマに美味しい情報交換

食生活改善推進員と、農林水産業を営む若手女性で構成する花蓮会が、12月7日に減塩料理教室を開催しました。15名が協力してカボチャポタージュなどクリスマス料理全6品が完成。「素材の組み合わせやスパイスの活用など、コツさえ押さえれば塩分を減らしてもおいしく仕上がると」情報交換しながら交流を深めました。